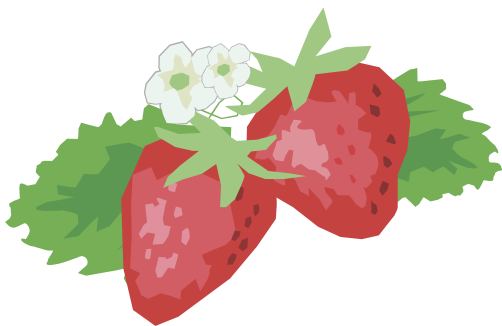


令和4(2022)年度

第4回

地域で輝く  
ふくしのチカラ  
大賞  
グランプリ

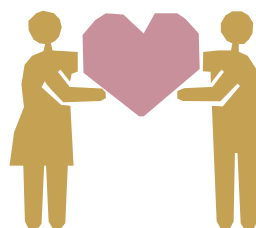
公益的取組事例集



## 目次



- 1 あいさつ
- 2 地域で輝くふくしのチカラ大賞 グランプリ 概要
- 3 受賞者概要
  
- 取組紹介
- 4 最優秀賞 社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 栃木県済生会  
『生活困窮者支援事業「なでしこプラン」』
- 6 優秀賞 中央地区地域支えあい協議体  
『地域の「困った」を「良かった」に変える  
中央地区地域支えあいボランティア活動』
- 8 優秀賞 社会福祉法人 足利市社会福祉協議会  
『多様な社会参加で『つながり』を取り戻す地域づくり  
～「買い物マルシェ」がつむぐ地域の和～』
- 10 特別賞 あおぞら会  
『お身体が不自由な方でも気軽に参加できるグラウンド・ゴルフ「あおぞら会」』
- 12 エントリー団体・取組紹介
  
- 13 おしらせ



## あいさつ

我が国の社会保障制度は、子ども・高齢者・障害者などの対象者や生活に必要な機能ごとに、公的支援制度の整備と充実が図られ、人々の暮らしを支えてきました。

しかしながら、地域では、人口減少や少子高齢化の進行といった地域社会の変容等に伴い、育児と介護を同時に抱える「ダブルケア」や、80代の親と50代の無職等の子が同居する「8050問題」など、個人や世帯が抱える課題が多様化・複雑化するケースや、日常生活に身近なごみ出しや買い物に関する悩みなど、既存の公的支援制度では対応が困難な「制度の狭間」にあるケースが顕在化してきました。

このため、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく『地域共生社会の実現』が求められているところです。

こうした中、栃木県では、社会福祉法人が行う「地域における公益的な取組」をはじめ、多様な主体が実践する地域のニーズに応じた様々な支え合い活動が、「地域共生社会の実現」に大きく資するものであると考え、優れた取組を行う法人等を表彰し、活動内容を広く発信することによって、地域における支え合いが県内で幅広く展開されるよう、「地域で輝くふくしのチカラ大賞（グランプリ）」事業を実施しております。

このたび第4回となりました本事業にエントリーされた法人・団体等の取組につきましては、いずれも、その地域のニーズや社会資源の状況などを踏まえつつ、地域の様々な関係者と協働しながら、創意工夫をこらして取り組まれている素晴らしいものでした。

この事例集はそれらの取組をとりまとめたものです。社会福祉法人をはじめ、福祉に携わる皆様方にとって、本事業の趣旨を理解し、地域の多様な主体の参画による取組を更に進めていく上での参考となれば幸いです。

栃木県保健福祉部長 仲山 信之



ロゴマーク

# 地域で輝くふくしのチカラ グランプリ 大賞

## 対象となる取組

社会福祉法第24条第2項に定める「地域における公益的な取組」のほか、地域のニーズと地域における社会資源の有無などを踏まえつつ、自主性・創意工夫に基づき実施する地域における支え合いや助け合い等、「地域福祉の向上」や「地域共生社会の実現」に資する取組を対象とします。

## 対象団体

- (1) 県内に本部を有する社会福祉法人
- (2) 県内に本部を有し、福祉サービスを行う特定非営利活動法人・一般社団法人
- (3) 県内を主たる拠点として活動する任意団体等

## 応募結果と審査について

## 評価項目

応募受付期間

令和4(2022)年9月7日(水)～11月20日(日)

応募件数

18団体 18事例

審査機関

地域で輝くふくしのチカラ表彰委員会

委員長 赤羽 幸雄

1 地域連携・貢献度

2 創意工夫

3 独自性

4 成果

5 発展・継続性

## 地域で輝くふくしのチカラ大賞 実践フォーラム

日程 令和5(2023)年2月16日(木)

特別講演

会場 栃木県総合文化センター 特別会議室

「つながりが生み出す地域の力」

Zoomウェビナー形式による配信

講師

プログラム

特定非営利活動法人

全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)

第1部 表彰式

出版・販売グループ長 **宇城 絵美氏**

第2部 受賞団体 事例発表

第3部 特別講演

学生時代に地元・栃木県から阪神淡路大震災の被災地を支援。CLCでは広報・出版を担当するほか、生活支援体制整備事業のアドバイザーとして自治体を訪問。  
専門分野:地域福祉、生活支援、災害支援、等



## 受賞団体



後列 左から中央地区地域支えあい協議体／社会福祉法人 足利市社会福祉協議会／あおぞら会  
前列 ぶくしのチカラ大賞表彰委員会 委員長／社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 栃木県済生会／栃木県保健福祉部 部長  
敬称省略

### 最優秀賞

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 生活困窮者支援事業「なでしこプラン」  
栃木県済生会  
宇都宮市

### 優秀賞

中央地区地域支えあい協議体 地域の「困った」を「良かった」に変える  
鹿沼市 中央地区地域支えあいボランティア活動

社会福祉法人 足利市社会福祉協議会 多様な社会参加で『つながり』を取り戻す地域づくり  
足利市 ～「買い物マルシェ」がつむぐ地域の和～

### 特別賞

あおぞら会 お身体が不自由な方でも気軽に参加できる  
大田原市 グラウンド・ゴルフ「あおぞら会」

## 生活困窮者支援事業「なでしこプラン」

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 栃木県済生会



### 取組をはじめたきっかけは何ですか？

設立母体の済生会は生活困窮者を医療で救済する「施薬救療」を目的に発足し、その創立の精神は2000年度より法人全体で展開している済生会生活困窮者支援事業「なでしこプラン」として、現在も受け継がれています。

昨今のコロナ禍では高齢者や障がい者などの孤立、児童虐待の増加、感染者への差別などが社会問題になりました。また経済的困窮や社会的孤立が深刻化し、全国的に自殺者数が増加し、栃木県内においても同様の傾向がありました。

自殺に至る前に社会的な支援につなげる必要があると考え、属性や世代を問わず誰一人取り残さない支援を目標に、行政だけでなく地域の関係機関や民間団体等と連携し、この取り組みを推進しました。

### どんな取組を行っていますか？

本会では、地域の関係機関（NPO法人等）と協働し、生活困窮者、障がい者、ホームレス、刑余者、在留外国人、虐待・DV被害者、長期療養者等が抱える様々な問題に寄り添い、継続的に支援する中でソーシャルインクルージョン（社会的包摂）を推進しています。なでしこプランの具体的な取り組みとして、外国人のための医療相談会、更生保護施設や薬物依存症者回復支援施

入居者の無料健診事業、長期療養者支援事業、性暴力被害者支援事業、産後ケア事業、災害時の炊き出し支援活動等が挙げられます。

コロナ禍においては、生活困難者の自殺を予防するため、キャッチしたSOSを必要な支援につなげることが重要と考え、「いのちの電話」や「よりそいホットライン」等多機関に協力いただき、地元ラジオを活用し、相談窓口の周知をはじめとした様々な自殺予防啓発活動を行いました。

その他、フードバンクうつのみやや宇都宮市保健所、栃木県保健福祉部、報徳会宇都宮病院、栃木県精神福祉士協会、栃木県医療社会事業協会等、多くの官民団体と連携、協働し、定期的に食料品配布会・相談会といったアウトリーチ型支援も積極的に実施しています。

### 取組を行う際のポイント

生活困窮者を含む社会的支援を要する人を取り巻く問題は複合化・複雑化しており、相談支援機関が単独では対応・解決が難しい場合が多々あります。包括的支援を実施するには多機関協働の仕組みが不可欠です。支援が縦割りにならないように、本会がハブとなり行政や様々な民間団体が横でつながるネットワークを構築し、支援を必要とする人たちが「ここに行けば何でも



相談できる」といったワンストップ相談が可能な体制づくりに努めています。

また、支援を必要としていながら声をあげられない人たちが多く、支援はあっても必要とする人に届かない現実もあります。相談会等を通して、困っている方、悩んでいる方のSOSに気づき、一人ひとりのニーズを引き出していくことが重要と考え、日々この活動に取り

### これからの活動について

経済的理由、国籍、社会的背景など様々な理由によって医療・福祉へのアクセスが制限されてしまう方や、社会保障制度が整備された今日においても、制度の狭間におかれる等社会から孤立してしまう方々を、誰一人取り残されない社会「ソーシャルインクルージョン」の実現に向け、官・民様々な団体がつながることで、幅広い分野が一体となって支援する重層的支援体制づくりに努めていきます。

今後も医療・福祉に限らず、様々な取り組みを展開し、網の目からこぼれ落ちる人がいなくなるように、1人1人の状況に合わせたきめ細かな対応を心掛け、地域共生社会実現の一翼を担っていきたくと考えています。

### 生活困窮者支援事業「なでしこプラン」

- ◆場 所 済生会宇都宮病院 他参加団体
- ◆地域連携 済生会がハブ的な役割となり地域の官・民それぞれ多くの団体に声をかけ、連携・協働しながら実施。地域の官・民がつながることで地域力の向上にも繋げている。
- ◆費用 完全無料



誰もが前を向いて、自分らしく生きられる社会の実現に向けて、これからも「なでしこプラン」を推進していきます。

未曾有のコロナ禍では、多様化・潜在化を極める社会課題が浮き彫りになり、社会の格差・分断が激しくなりましたが、誰もが前を向いて、自分らしく生きられる社会の実現に向けて、本会はこれからも「なでしこプラン」を推進していきます。今後もこの活動を通して蓄積したスキルやネットワークを活用し、一人ひとりに耳を傾け、どこまでも寄り添う支援を続けていきます。

私たちがソーシャルインクルージョンの実践となる社会的排除や孤立をなくす街づくりを推進することで、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念を具体化し、地域課題への対応が社会を変える力になるよう、創立の理念を実現し続けていきたいと思ひます。

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 栃木県済生会 支部長 小林 健二



### 団体概要

団体名 | 社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 栃木県済生会

所在地 | 栃木県宇都宮市竹林町911-1

事業内容 |

生活に困窮する外国人等への支援、刑余者への支援、仕事や生活に関する支援、コロナ禍における生活支援

代表 | 支部長 小林 健二

### 評価のポイント

社会的孤立や経済的困窮といった問題が深刻化する中、制度の狭間にある外国人や刑余者、薬物依存施設入所者等への無料の健診事業を行うとともに、両立支援、生活支援、就労支援などの相談業務に取り組み、「誰一人取り残さない支援」という考え方で官民様々な団体と連携している点が高く評価されました。

## 地域の「困った」を「良かった」に変える 中央地区地域支えあいボランティア活動

中央地区地域支えあい協議体



### 取組をはじめたきっかけは何ですか？

鹿沼市の中央地区は17町の自治会で構成されており、鹿沼市の中心地区として経済と文化の中心的な役割を担ってきました。近年は人口の減少と高齢化が進んできており、地域の活力が少しずつ低下しています。

そのような中で、平成25年、平成27年の2度にわたる大規模浸水被害をきっかけに、地域住民の一人ひとりが安心して暮らせる地域づくりを目指し、平成31年に中央地区安全安心総合対策推進協議会が発足しました。地区の住民に実施した「日常生活困りごとアンケート調査」により、令和元年10月より、暮らしやすい地域づくりに取り組むために地域支えあいボランティア活動(住民同士の支えあい事業)を開始しました。

### どんな取組を行っていますか？

地域の高齢者の自立と生活を支えていくために、地域住民から支えあいボランティアを募り、公的サービスでは対応できない家屋内の掃除・洗濯・布団干しや屋外の草刈り・除草・庭の手入れと、寄り添い支援として話し相手や散歩の同行、など住民同士の支えあい活動を行っています。

活動を始めてみると、今迄の地区組織の垣根を越えることができ、地域住民に横のつながりが生まれ、より

地域の活性化とお互い様の関係性が強くなりました。

### 取組を行う際のポイント

運営は社協や行政が担うことなく地域住民が主体となって行っています。高齢者の日常生活の自立を支えるために“おせっかい”にならないよう寄り添いながら支援を心掛けています。また、訪問時には依頼だけでなく高齢者とのおしゃべりをしながらコミュニケーションを図り、そっと見守ることも大切にしています。そして、日常生活支援の依頼だけでなく地域の高齢者から「話を聞いてほしい、相談にのってもらいたい」など心配ごとを受けとめる存在になっています。

福祉案件など専門的な事案は「中央地区地域支えあい活動連絡票」にて地域包括支援センター、鹿沼市社会福祉協議会と連携する仕組みがあります。

また、緊急時には民生委員・児童委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、市と連絡体制があります。

### これからの活動について

コロナ禍においても、感染予防を講じながら高齢者の生活支援を中断することなく活動を継続しています(活動は年々増加中)。

併せて、地域が主体となっている生活支援を実施して



いる県内外の団体への視察を行い、交流を図りながらお互いの活動のヒントを得て、良いところを取り入れるなど、現在の活動においても改善につなげていきます。

今後は高齢者の買い物のニーズに対応するための送迎サービス等を検討しています。

**中央地区 支えあいボランティア活動**  
 『高齢者世帯でお手伝いが必要な方、ボランティアの方を募集中！』  
 庭の草刈りや 買い物代行など  
 家事やお掃除などの日常生活支援  
 利用料金  
 40分 (100円)  
 60分 (200円)  
 90分 (300円)  
 120分 (400円)

**中央地区支えあいボランティア活動**  
 【入会・登録 年会費申込書】※お申し込みは必ずこちらから  
 申し込み日 年 月 日  
 姓 名 姓 名  
 住 居 所在地  
 電話番号 大正・昭和・平成 年 月 日( )  
 年会費 1000円 □  
 2000円 □  
 3000円 □  
 4000円 □

## 中央地区地域支えあいボランティア活動

- ◆場 所 鹿沼市中央地区エリア
- ◆対 象 中央地区在住の65歳以上高齢者世帯対象
- ◆活動内容 ・食事作り、掃除、片付け、洗濯、布団干し、草刈り、除草、話し相手、散歩付添い、買い物代行、不要品の整理などのサービス提供  
 ・年間述べ219人の地域の協力会員が158件の活動に取り組む。(第3期)
- ◆会 費 各会員の年会費は、利用会員1000円、協力会員1000円、賛助会員2000円以上。
- ◆料 金 利用時間ごとに低額の料金設定



中央地区地域支えあい協議体メンバー

### 『おせっかいにならないよう、高齢者の気持ちに寄り添いながら日常生活をそっと支える』オンリーワンなまちづくり



中央地区の地域支えあいボランティア活動は高齢者の日常生活支援のため、いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、中央地区の横のつながりを活かし、顔の見える関係で取り組みを始めてから4期目に入りました。

『おせっかいにならないよう、高齢者の気持ちに寄り添いながら日常生活をそっと支える』ことで、これからも住みやすさオンリーワンのまちに取り組んでいきたいと思ひます。

中央地区地域支えあい協議体 代表 吉井 和夫

#### 団体概要

団体名 | 中央地区地域支えあい協議体  
 所在地 | 栃木県鹿沼市三幸町77-1  
 代表 | 吉井 和夫

事業内容 | 高齢者の日常生活支援  
 (家事支援・寄添支援・屋外支援)

#### 評価のポイント

活動にあたって、自治会、民生委員・児童委員、見守り隊、老人クラブに加え、地元小学校、交番、市、社会福祉協議会等の関係機関、さらには地元商店など様々な方々の参加を得ながら、横のつながりを築き上げています。地域における高齢者世帯への見守り支援や多彩な生活支援を行うとともに、ハイキング等のイベントも企画して地域のつながりが切れないう工夫するなど、きめ細やかな取組であることが高く評価されました。

## 多様な社会参加で『つながり』を取り戻す地域づくり ～「買い物マルシェ」がつむぐ地域の和～

社会福祉法人 足利市社会福祉協議会



### 取組をはじめたきっかけは何ですか？

足利市では、高齢化率が33%を超え、市内では46%を超える地区もあります。

また、地域の商店やスーパーの閉店、バス路線の廃止、免許証返納等の理由で、買い物や通院等の外出が困難になる人も増えつつあります。そのようなことから令和3年度より「買い物・移動支援」に関する取り組み始めました。「買い物マルシェ」はその取り組みの一つです。

当初は買い物に困っている人が遠出をしなくても、自宅近くで簡単な買い物ができる場所の提供が主な目的でしたが、長く続くコロナ禍で多くの地域活動が中止となり、自粛生活が長期化しその結果「フレイル」の進行がみられるようになりました。

そのような背景の中で始めた「買い物マルシェ」は、感染リスクが軽減する屋外で、久しぶりに地域の人が再会する、気がつけばいろいろな人が集まる地域の居場所を提供する事業に変化してきました。

### どんな取組を行っていますか？

当日マルシェを運営する地域の団体（サロン、自治会、老人クラブ等）が、開催日時、概ね10名以上が集まって三密を避けることのできる場所を決めて市社協に申請をします。その後、マルシェに出店していただく店

舗（主にキッチンカーや移動販売）を市社協が調整します（2～3店舗）。広報（周知）や当日の運営は申請団体が行います。

### 取組を行う際のポイント

地域住民主体の「買い物・移動支援」と聞くと地域の皆さんは、車がない、運転手がない、事故が起きたらどうする等となかなか最初の一步を踏み出すことが難しいように感じました。ならば、身近な場所にマーケットを開けばいいのでは？という視点で取り組みを始めました。

地域で顔の見える関係を作れるようできるだけ開催地域のお店に出店していただけるよう調整しています。

### これからの活動について

私たちの日常は新たなフェーズへ移り、この「買い物マルシェ」も新たなフェーズへ移行していく時期に来ていると感じます。地域の人が集える「居場所」に、ちょっとした困りごとを相談できる人がいたり手助けできる人がいたりする地域の場になっていければと思います。また、当初目指した「買い物に困る人を支援できる」場所にもしていきたいと思っています。

コロナ禍で失われつつある人との「つながり」や希



薄化する地域住民の「つながり」をこの「買い物マルシェ」が「地域の和」としてつむぐ、そこに福祉の枠を超えて多様な人が集い、「つながり」を育むみんなの居場所を作りたいと思います。それこそが地域共生社会づくりであると考えます。



チラン・のぼり



移動図書館「ともしび号」  
絵本のみきかせの様子

### ～「買い物マルシェ」がつむぐ地域の和～

- ◆場 所 足利市内における三密を避けることのできる屋外の場所
- ◆実施団体 地域での活動実績がある団体  
地区社協の支部(自治会)、高齢者サロン、老人クラブ、協議体等
- ◆開催方法 開催日時・場所を決めて市社協に申請後、市社協が出店店舗を調整
- ◆広報・運営 申請団体が行う
- ◆料 金 無料  
(経費が必要な場合には3,000円を上限として助成)

※ハートショップ(足利市自立支援協議会就労部会)に必ず1事業所出店していただく

### 『おせっかいにならないよう、高齢者の気持ちに寄り添いながら日常生活をそっと支える』オンリーワンなまちづくり



足利市においても、店舗の閉店や公共交通の弱体化などにより、日常の買い物機会が十分でないいわゆる「買物弱者」の問題は大きな地域課題となっています。

このような課題に対して、社協として何か支援できないかと、令和3年度から「買い物・外出支援」に取り組みました。その中の一つ「買い物マルシェ」については、参加した方から大変好評をいただいています。今後もさらに創意工夫をし、発展するよう取り組んでまいります。

社会福祉法人 足利市社会福祉協議会 会長 岩田 昭

団体名 | 社会福祉法人 足利市社会福祉協議会  
所在地 | 足利市東砂原後町1072番地  
足利市総合福祉センター内  
代 表 | 会長 岩田 昭

事業内容 | 買い物・移動支援事業

### 評価のポイント

当初、買い物支援からスタートし、フレイル予防もねらい、さらに福祉の枠を超えて多様な人が集い、つながりを育む地域の居場所を提供する事業へと発展しています。高齢者にとどまらず、子育て世代向けの移動図書館の取組など、事業を「世代間交流の場」として発展させながら取り組んでいることも、高く評価されました。

## お身体が不自由な方でも気軽に参加できる グラウンド・ゴルフ「あおぞら会」

あおぞら会



### 取組をはじめたきっかけは何ですか？

大田原市では、地域支援事業の1つに軽度の要介護認定者ができるだけ自立して生活できるように多職種で検討する「自立支援のための事例検討会」があります。この検討会で話し合われた事例がきっかけとなり、比較的若くして中途障害となった方が気軽に参加できるような活動が地域にないことがわかりました。

ないのであれば作れないかと考え、生活支援コーディネーターが中心となって企画を立案。

屋外活動で感染予防などの対策がとりやすいことなどから、気軽に参加でき、フレイル予防にも繋がるグラウンド・ゴルフの会(あおぞら会)を立ち上げることとなりました。

### どんな取組を行っていますか？

病気や怪我などでハンデキャップがあり、これまで地域活動に参加できなかった方々が気軽に参加できるようグラウンド・ゴルフの会を目指して活動をしています。

グラウンド・ゴルフは身体が不自由な方でもできる適度な運動です。参加者同士のコミュニケーションも活発に行われることから、フレイル(虚弱)や社会的孤立の予防、生きがいづくりに繋がることを期待しています。

ボランティアやサポーターが技術指導や記録の補助

などを行うことで、初心者やハンデキャップのある方が参加しやすい環境を整えています。

### 取組を行う際のポイント

環境面では整備されたトイレと移動手段の確保が課題となりました。地域の社会福祉法人や関係機関の協力があったことで、和式トイレに据え置き式便座を設置するなどの整備ができ、デイサービス等の送迎に影響のない時間帯で送迎の支援をしていただけました。参加者の増加に伴い会場の変更が必要になりましたが、整備されたトイレの確保は難題となっています。

運営面では、住民ボランティアが快く支援してくれたことで道具などの必要物品も借りることができました。

ケアマネジャーやリハビリテーション専門職などにも協力していただき安定した運営ができています。

地域に必要と思われる取り組みも1つの機関だけでは難しいことが多い中、今回は様々な機関や団体の協力が得られたことがポイントだと思います。

### これからの活動について

この活動が地域に認知されてきたことで、少しずつ参加者や協力してくれる方が増えてきています。現在は、車いすの方が利用できるトイレの確保が課題と



なっています。トイレが整備できれば車いすの方にも安心してご参加いただけるようになると思います。

今後も地域包括支援センターが事務局となり、関係機関・団体と協力することで持続的な取り組みにしていきたいと考えています。



準備運動



送迎

チラシ

お身体が不自由な方でも気軽に参加できる  
グラウンド・ゴルフ  
**あおぞら会 参加者募集中!**  
年齢・性別問わず!!

○場所:水辺公園第2グラウンド  
○毎月第4木曜日 10:30~(実際の開催日時)  
○参加費:1回100円(保険料等として)  
○集合時間にお越しいただければ、  
道具なしで気軽に参加できます。

主催 大田原市中央地域包括支援センター

令和4年度下半期日程  
初心者大歓迎!! 参加自由!!

日程	曜日	時間
10月27日	第4木曜日	10:30~
11月17日	第3木曜日	10:30~
12月22日	第4木曜日	10:30~
1月26日	第4木曜日	10:30~
2月16日	第3木曜日	10:30~
3月23日	第4木曜日	10:30~

※開催地大田などの開催により変更になる可能性があります。

体力に自信のない方も!! 楽しくプレー!!  
ご不明な点がありましたら気軽に御問合せください!  
大田原市中央地域包括支援センター  
TEL 0287-20-1001

### 活動の中で役割を得るなどして、参加される方の自立支援やフレイル予防の一助になれば幸いです。

この取り組みを通して住民ボランティアをはじめ、関係団体とのネットワークを構築することができました。様々な背景のある方が参加し、楽しんでプレーする姿がとても印象的です。このような活動に発展できたのも多くの方のご支援があったからこそと感じております。活動の中で役割を得るなどして、参加される方の自立支援やフレイル予防の一助になれば幸いです。

今後もグラウンド・ゴルフを通じた地域づくりに貢献できればと考えています。

あおぞら会事務局 大田原市中央地域包括支援センター



団体名 | あおぞら会

所在地 | 栃木県大田原市浅香3-3578-747  
大田原市福祉センター内  
(事務局)大田原市中央地域包括支援センター

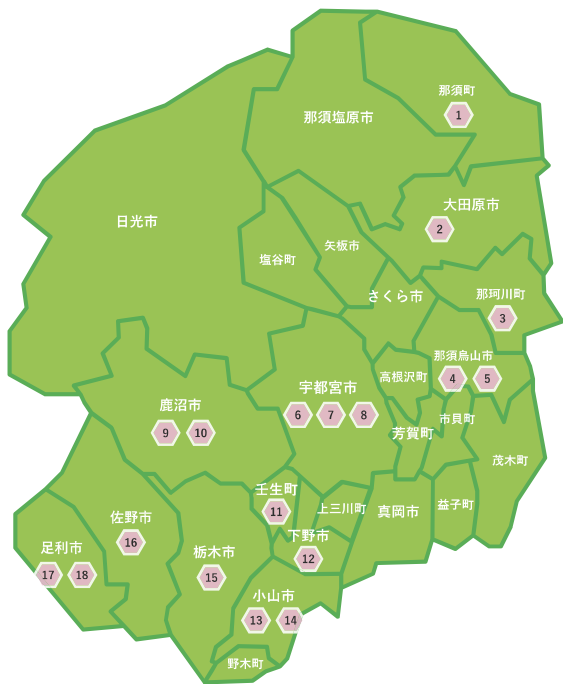
代表 | 石下 真弓

事業内容 | グラウンド・ゴルフを通じた地域づくり

### 評価のポイント

比較的若くして中途障害となった方が気軽に社会参加できる機会が少ないことに着目し、フレイル予防にも効果が期待できるグラウンド・ゴルフの会を立ち上げ、支援に取り組んでいるという点に関し、独自性が高いものとして評価されました。特に悲観的になりがちな中途障害となった方々の社会参加、生きがいづくりにつながるものであり、更なる活動の広がりが期待されます。

# エントリー団体・取組紹介



- 1** **あかりキッチン（那須町）**  
**地域福祉の食事会&見守り弁当**  
 毎月の交流食事会と見守りを兼ねた宅配弁当の活動を実施。町社会福祉協議会や地域包括支援センター等と連携を図り、見守りの情報を共有している。
- 2** **あおぞら会（大田原市）**  
**お身体が不自由な方でも気軽に参加できるグラウンド・ゴルフ「あおぞら会」**  
 誰でも気軽に参加できるグラウンド・ゴルフの活動を実施し、比較的若くして中途障害となった方やフレイル段階の方の社会参加の機会を創出している。
- 3** **社会福祉法人 同愛会（那珂川町）**  
**のんびりカフェ(多機関連携によるひきこもり支援)**  
 ひきこもり当事者の居場所づくりや家族会の開催、職場体験等の支援を実施。会場を認知症関連事業にも活用し、多世代他分野の交流も生まれている。
- 4** **社会福祉法人 那須烏山市社会福祉協議会（那須烏山市）**  
**生活支援サービス 助っ人からず事業**  
 暮らしの中のちょっとした困り事などの相談に対し、協力者の調整・マッチングを行い、連携しながら解決に向けたお手伝いを実施。協力者との情報交換等の場も設けている。
- 5** **日野町縁の会（那須烏山市）**  
**地域連携支援活動**  
 民生委員・児童委員からの要請により、高齢者宅の除草、枝切り、家の片付け作業、地域の環境美化活動、地域が一体になる活動（農園開設事業、餅つき、どんど焼き、ラジオ体操等）を実施している。
- 6** **こすもす会（宇都宮市）**  
**一人暮らし高齢者への手作り弁当・配食サービス・見守り活動**  
 増加している独居の高齢者を地域で見守るために弁当の調理及び宅配を開始。弁当配達時には近況や健康状態の確認などの見守り活動も併せて実施している。
- 7** **社会福祉法人 飛山の里福祉会（宇都宮市）**  
**フードバンク**  
 法人・施設に関わりのある方や取引農家と協力し、野菜、米、缶詰、レトルト食品等を外国人技能実習生や清原地区の子育て世帯、コロナ禍等で生活が苦しい方等に配布をしている。

- 8** **社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 栃木県済生会（宇都宮市）**  
**生活困窮者支援事業「なでしこプラン」**  
 医療福祉にアクセスできない、社会保障サービスを受けられない方に対し、官民様々な団体と横でつながるネットワークを構築し、相談支援や無料検診、就労支援、生活支援等を実施している。
- 9** **中央地区地域支えあい協議体（鹿沼市）**  
**地域の「困った」を「良かった」に変える中央地区地域支えあいボランティア活動**  
 地域の高齢者の自立と生活を支えるため、地域住民から支えあいボランティアを募り、掃除や庭の手入れ、話し相手や散歩の同行などの支援を実施している。
- 10** **社会福祉法人 鹿沼市社会福祉協議会（鹿沼市）**  
**「かぬまひきこもり家族会」の運営**  
 ひきこもり当事者とその家族が社会から孤立しないよう、相談会、研修会、居場所の運営を支援し、同じ悩みを抱える仲間として助け合う互助・共助活動を促進している。
- 11** **社会福祉法人 壬生町社会福祉協議会（壬生町）**  
**つなぐ輪みぶ(生活支援有償ボランティア)**  
 困り事を抱えている人(利用者)と助けたい・役立ちたいと思う人(応援者)を事前登録の上でマッチング。交流会では応援者同士による情報交換等を実施している。
- 12** **助け合い支え合いの市民組織「和ごむの会」（下野市）**  
**ちょっとした困りごとのお手伝い・有償ボランティア活動**  
 65歳以上の高齢者及び障害者に対して、掃除や洗濯、食事づくり、通院介助や買い物付き添いなどのちょっとした困り事を有償ボランティアにより支援している。
- 13** **若者サポート・ハチドリの会（下野市）**  
**ひきこもりや不登校の方を対象とした相談支援及びサロンの運営**  
 不登校、ニート、ひきこもり等様々な悩みや困難を抱える若者、その家族を支えるための相談支援事業として、月1回個別の相談支援や、交流・相談のサロンを開催している。
- 14** **社会福祉法人 パステル（小山市）**  
**CSWおとめSDGS2030**  
 桑の葉・桑の実の栽培から商品開発につなげるなど、六次産業化の実践により障害のある方に多様な仕事を生み出している。また、体験教室等の開催により地域の障害者理解につなげている。
- 15** **静和まちづくり協議会 我が事・丸ごと部会（栃木市）**  
**無料送迎サービス事業**  
 外出が困難な方の移動手段の確保により、地域における自立生活と社会参加を促進。また、運転ボランティアの認定講習開催や自動車保険加入により、担い手の確保と質の向上を図っている。
- 16** **NPO法人 植野たすけあい（佐野市）**  
**高齢者向け日常生活介護支援サービス・外出支援サービス**  
 ボランティアを募り、病院等への送迎や部屋の掃除など高齢者の生活支援を実施。最近では、寺子屋事業や子ども食堂など、子どもの居場所づくりにも取り組んでいる。
- 17** **社会福祉法人 足利市社会福祉協議会（足利市）**  
**多様な社会参加で『つながり』を取り戻す地域づくり～「買い物マルシェ」がつむぐ地域の和～**  
 買い物に困っている人が自宅近くで買い物ができる場所を提供するためにスタート。最近では子育て世代も集まり、世代間交流の場にもなっている。
- 18** **社会福祉法人 美明会（足利市）**  
**クリーンマイルプロジェクト**  
 ゴミ屋敷化している家について、入居者・親族・民生委員と話し合い、契約を交わして一斉清掃を実施。本人や近隣の方々が安心して生活できるように支援している。

栃木県内の社会福祉法人(施設)がみんなで行き組む  
栃木県社会福祉法人による「地域における公益的な取組」推進事業



# いちごハートねっと事業



栃木県内の社会福祉法人が「栃木県社会福祉法人による「地域における公益的な取組」推進協議会」を組織し、地域の生活困窮者や福祉制度の狭間で困っているの方々に対する相談・支援を行う「いちごハートねっと事業」を行います。

地域において様々な「生活のしづらさ」を抱えながらもどうしてよいか分からずお悩みの方や必要な支援が受けられない方、孤立している方などに対し、社会福祉施設の持つノウハウや機能、ネットワークを活かし、福祉に関する総合的な相談に応じる「おこまり福祉相談」や各社会福祉施設が特性を活かして取り組む様々な「あんしん支援事業」を実施し、サポートしていきます。

一期一会の出会いを大切に地域暮らしをネットワークで支えます。

## おこまり福祉相談

### おこまり福祉相談窓口

参加する全ての社会福祉施設（保育所、児童福祉施設、障害者支援施設、老人福祉施設、救護施設等）で、施設種別の専門に関わらず、「福祉に関する何でも相談窓口」を設けています。

いちごハートねっと事業の看板のある施設にお越しください！

地域にお住まいで、生活や福祉のことでお困りの方や、行政や社会福祉協議会などからご紹介いただいた方の相談をお受けいたします。



### 受け止める

どのようなご相談にも、丁寧に対応いたします。お困りごとの内容を丁寧に受け止め、適切なアドバイスやサポートを行います。

## あんしん支援事業

例) 中間的就労、要援助者緊急支援、子ども食堂、学習支援 などニーズに応じたメニュー

### 地域の社会福祉施設等のネットワークによる支援

地域にある様々な社会福祉施設等と連携して相談者を支援します。

### 相談を受けた施設での継続的な支援

それぞれの施設の特性を活かした支援事業を実施し、相談者を継続的にサポートしていきます。

### 様々な制度につなぐ

福祉事務所や社会福祉協議会等関係機関と連携し、各種支援制度につなぎます。

※あんしん支援事業は、今後、相談状況等を踏まえて、順次実施していきます。

## いちごハートねっと事業に関するお問い合わせ先

### 栃木県社会福祉法人による「地域における公益的な取組」推進協議会

〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3F 栃木県社会福祉協議会 内  
TEL028-305-5515 FAX028-622-5788 URL <https://www.ichigosoudan.jp/>

フェイスブック  
はじめました。





# 包括的な支援体制の確立に向けて 「地域における公益的な取組」のさらなる展開を

地域共生社会の実現を主導する社会福祉法人の姿

## 「地域における公益的な取組」の積極的な発信を!

- ◆ 社会福祉法人においては、多様な取組を展開しているにもかかわらず、地域における公益的な取組として認識されず、十分な発信をしていない状況も見受けられます。
- ◆ その結果、社会福祉法人の姿が、地域住民をはじめ社会にきちんと伝わっていない側面があるため、自らの取組を積極的に情報発信し、社会福祉法人の存在意義をPRし、社会福祉法人が向き合っている地域課題を社会全体で共有しましょう!

## 「地域における公益的な取組」により地域共生社会の実現を推進しましょう!

- ◆ これまでの実践の延長線上で展開されている多様な取組が、地域共生社会の実現に寄与していることを再認識し、地域での包括的な支援体制の構築に向けて、取組のさらなる拡充をめざしましょう!

## 複数法人間連携とともに、自治体や社協との一層の連携強化を!

- ◆ 個々の法人の専門性を活かすとともに、複数の法人が連携して制度の狭間にある課題に向き合い、様々な地域づくりに関わる取組を推進しましょう!
- ◆ 市町村や社会福祉協議会との連携を一層強化し、地域共生社会の実現に向けて、包括的な支援体制の確立をめざしましょう!

## 社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の社会的な効果、成果

- 1 地域課題の把握・気づき・掘り起こし  
① 住民相互の交流の場・居場所づくり  
② 相談しやすい環境づくり  
③ 地域課題の発見と早期対応
- 2 制度の狭間にある課題に対する専門的、総合的な対応
- 3 職員の意識・ソーシャルワーク機能の向上、人材の確保・定着
- 4 ソーシャルワーカーの専門性や実践力の向上に資する実習機会の提供
- 5 自治体や社協等との連携による地域づくりに向けた活動の活性化
- 6 地域住民の理解促進
- 7 地域における災害支援体制の構築

## 地域における包括的な支援体制の確立

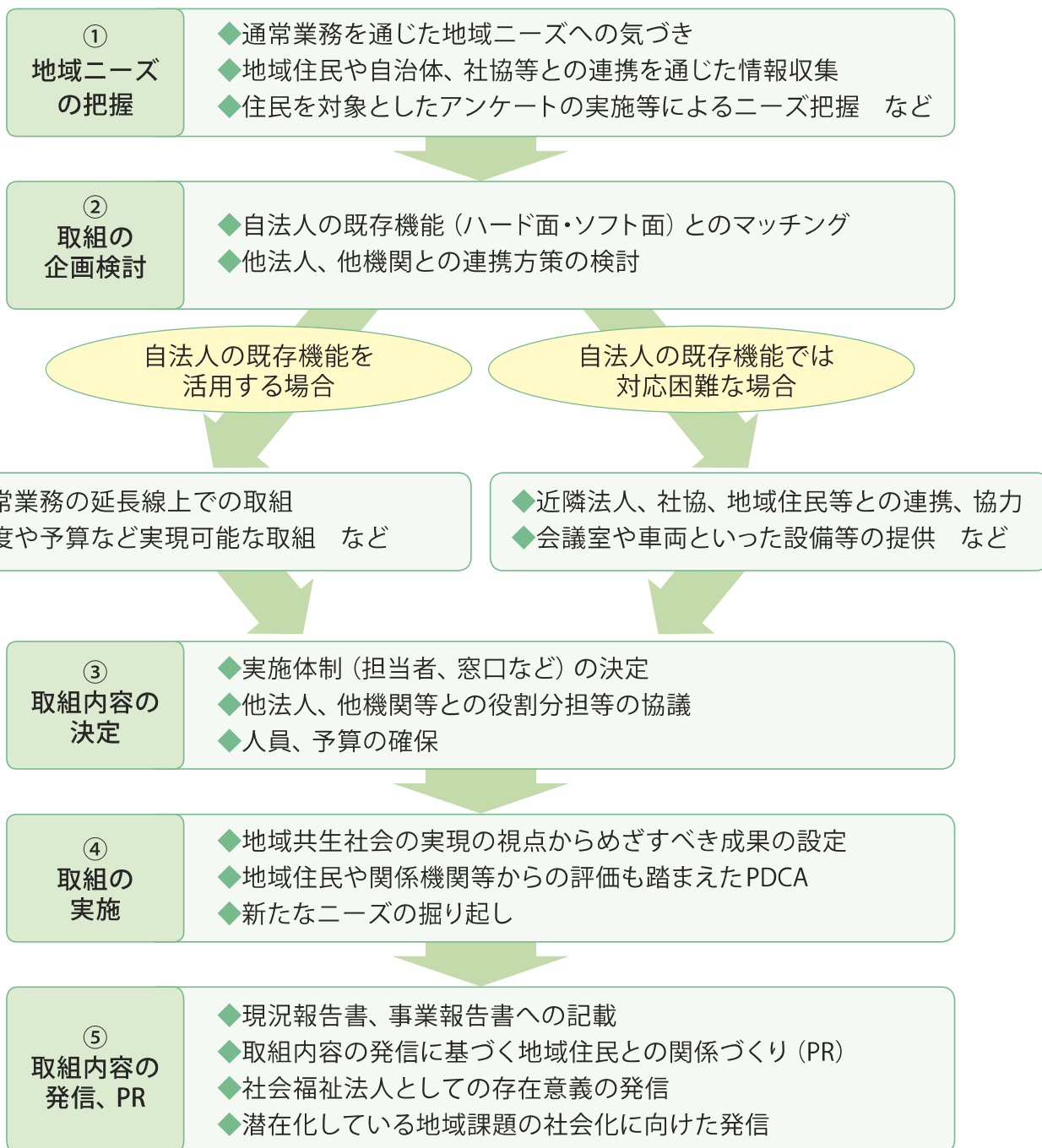
＜地域共生社会の実現＞





◆本委員会では、これまでに収集した実践事例等を通じて、地域共生社会の実現に向けて、「地域における公益的な取組」を展開するうえでの標準的な手順について、以下のように整理しました。

## 「地域における公益的な取組」の標準的な展開手順



- あくまで多くの事例に共通する手順をもとに整理したものであり、地域の実情や法人の理念、方針、体制などに応じて、独自の工夫が必要であると考えられます。
- 委員会報告書では、より効果的な取組につなげるための工夫やアイデアなど紹介していますので、ぜひ参照ください。

「地域における公益的な取組に関する委員会」報告書  
[https://www.shakyo.or.jp/tsuite/jigyo/research/20190322\\_koueki.pdf](https://www.shakyo.or.jp/tsuite/jigyo/research/20190322_koueki.pdf)

出典：社会福祉法人 全国社会福祉協議会



# 輝くとちぎの 人づくり推進基金への 寄附に御協力ください



地域の課題解決に向けて、  
「地域活動の担い手の育成」と  
「自主的・主体的な活動の促進」の  
ために基金を活用します。

## グリーン・ツーリズム人づくり事業



## とちぎユニバーサル農業総合強化事業



## 人権啓発事業 (ヒューマンフェスタ)

## とちぎの輝く人と地域を育てます

人口減少・少子高齢化の進行や自然災害の頻発・激甚化、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、私たちの住む地域の課題は、ますます複雑多様化しています。

栃木県では、女性・若者・高齢者・障害者をはじめ、誰もが地域の担い手として活躍することができるよう、人材育成に取り組むとともに、一人ひとりが能力を十分に発揮できる環境づくりに取り組んでいます。

寄附申込・納付方法などに関するお問い合わせ先

栃木県県民生活部県民文化課（県民協働推進室）

☎028-623-3422 FAX 028-623-2121 E-mail kyodo@pref.tochigi.lg.jp

ホームページ <https://www.pref.tochigi.lg.jp/c01/life/hitokikin/sougouannai.html>





誰もが 心つうに くらせる しあわせ のために

# 栃木県地域福祉基金 への 寄附に御協力ください

県では、県民みんなで支え合い、共に生きる地域共生社会の実現に向けて、地域福祉の更なる充実を図るため、様々な地域福祉推進事業を実施する財源や皆様の善意（寄附）の受け皿として、「栃木県地域福祉基金」を設置しています。

## 地域福祉基金の主な使いみち

- おもいやり駐車スペースの普及啓発
- ヘルプマークの普及啓発
- いのちの電話の相談員の養成
- 民生委員・児童委員の研修
- 福祉ボランティア活動の推進
- 児童養護施設等退所者の支援 等



ナイチュウ とちまるくん

栃木県保健福祉部保健福祉課（地域福祉担当）

TEL：028-623-3047 FAX：028-623-3131

E-mail：hofuku@pref.tochigi.lg.jp

ホームページ：https://www.pref.tochigi.lg.jp/e01/chiiki-fukushi-kikin.html

